

■日本橋サステナブルサミット

(主催: 社団法人 日本橋室町エリアマネジメント)

- ✧ 日本橋の企業が集まり、各社のサステナビリティ推進の取り組みを発表・共有するイベントで、今回が2回目の開催となります。
- ✧ 人的資本の好循環をメインテーマとし、「働き方」「エネルギー」「食」「教育」の4つの分野で参加企業による講演やパネルディスカッションが行われました。
- ✧ 当社は「教育」分野での「次世代育成が拓く子供の可能性」と題するセッションに、サステナビリティ推進部の稲葉部長が登壇しました。



次世代教育セッション「次世代育成が拓く子どもの可能性」

モデレータは新生企業投資(株)の高塚清佳さん。教育現場に DX を提供するライフイズテック(株)の讃井康智さん、中外製薬(株)社会貢献担当の酒井めぐみさんとともに、パネルディスカッションに参加し、「金融リテラシー教育と ESD プロジェクト」について紹介しました。

①パーパスを実現し、価値創造を加速する「Well-being の好循環」

お客さまや社会の Well-being 実現 ⇒ FINANCIAL WELL-BEING

②次世代を担う子供たちに向けての ESD(持続可能な開発のための教育)



本年から高等学校でも金融教育が必須科目として組み込まれるようになり、当社(資産のミライ研究所)からも「SDGs と金融」などのテーマも織り交ぜながら高等教育の現場向けにもコンテンツを提供しています。また2012 年から「自然の価値がわかる人を育てる」ことを目的として、地域コミュニティに向けた環境教育としてスタートした ESD が 10 周年を迎え、ショート動画も放映しました。

■ <https://www.smtb.jp/about/sustainability/esd>

後半のセッションでは、以下のようなテーマについて意見が交わされました

- ✓ 学校・企業が得意なこと・苦手なこと～学校は機会均等、子どもたちに広く浅く教えることは得意だが、デジタルやサステナビリティなど、新しい分野のコンテンツに課題あり。ここに、民間企業が関わる余地があるのではないか、その際、すでに教育課程で決められていること(デジタル・金融教育)と、課外事業でやっていくことでやり方は変わってくるのではないか、という点ではパネリストの意見が一致。
- ✓ デジタルによる変化～デジタル社会ではむしろ地域格差が増幅していると感じる。サステナビリティだけでなく、ディベロッパビリティ(開発拡張性)も考慮する必要がある。
- ✓ CSR 活動を通じての社員の態度・行動の変容～地域コミュニティへは、社員自らが金融教育の先生となり近隣の学校で授業を実施。社員にとっても地域に対する貢献ができている、子どもたちの未来に対して役に立っているという実感がある。教えるために社員自らが学びを高める、それが会社全体にとっては人的資本向上に繋がる。その社員を受け入れるだけの組織風土が必要。

参加者・主催者からは、色々キーワードが示されて講演の質が高まった、三井住友信託銀行もこの分野に力を入れていることがわかったので今後連携させてほしいといった声がありました。また参加した当社社員からは、異業種が交わるセミナー参加は初めての経験で新鮮だった、当社がこういった活動をPRできることを誇りに思う、もっと普段から社員向けに露出機会があってもいいのでは等々の声がありました。



■学びの森のママまつり

日本橋秋のサステナ Month の一環で子育てママ支援団体・NPO 法人チルドリンが全国各地で主催する地域のママコミュニティイベントに参加しました。ママまつりは、自然と共創で循環する未来の為に、子供たちの明るい笑顔を中心に親子で楽しめるイベントを実施するという主旨に沿った企画です。



日本橋営業部は本イベントに今回初参加しました。イベント開催日である 11/5、6 両日共に出店し、「①模擬紙幣を使った 1 億円重さ体験」、「②銀行員が教える札勘体験」の2つの参加型ワークショップを開催しました。多くの方に足を止めてもらい、イベントを盛り上げることに成功！地域の将来を担う子供たちがお金について関心を持つ一助となることができたと好評でした。

以上